



- **みんなと協力して**課題の解決を目指すこと。自分
が分かることはもちろんだが、学級全員が分かる
ことが目標であること。
- **自分の机を離れ**、友達と協力して学習することは
自由であること。
- **学習課題に対して**、結論だけでなく、全員が理由、
考え方が説明できるようになること。
- **先生に聞いたり、相談したりする前に**、友達に相
談すること。
- **目標を達成するために**、一番良いと思う方法で学
習してよいこと。
- **友達の意見をよく聞くこと**。自分と違う意見の中
に大切な考えがあること。

■目標の設定

- 達成しなければならない具体的内容の最終目標を
児童生徒に提示する。
- 「上の上」に目標をあわせる。
- 教師は1時間の細かい計画ではなく、1単元など
大きな見通しをもって学習目標を設定する。
- 「やろう!!」と思わせること。

■『学び合い』学習

- 「他者」と繋がれることを保証する。子どもたちが
話せる時間を保証し、教師が邪魔しなければよい。
- 立ち歩きを認める。
- 教師は、児童生徒への個人的な直接教授をしない。
- 『学び合い』成熟するように可視化を行う。



～『学び合い』の授業とは～

- 授業を通して、児童・生徒の人格の完
成を目指す。具体的には、人と関わる事
により学習課題発見・学習課題の解決・
学習内容の定着・学習意欲の向上を図る。
(人間関係力の育成)
- 児童・生徒一人一人の学習を保障する。
学級全員の子どもが分かる授業。

『学び合い』 でいこう!

7つの「よく分かる」で
生徒の自己指導力が高まる!



これからの学校教育

～ 学習指導要領の改訂にともない ～

■「生きる力」をよりいっそう育む

- ・「基礎的な知識・技能の習得」「思考力・判断力・
表現力の育成」→確かな学力(学習指導要領はす
べての子どもが達成する最低基準)
- ・豊かな人間性(自制心、協調性、思いやる心や
感動する心)
- ・健康や体力



■各学校テーマの実現

教育の目標の達成とは

■**教育基本法第1条** 教育は、**人格の完成**を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

■**人格の完成とは** 人と関わりながら教材を学び、それを分かり、心を成長させ、それによって人と関わり合いながら社会の一員となれる人を育てること。

■**教師の仕事とは** 学校教育のあらゆる場面で、児童・生徒一人一人の人格の完成をめざすこと。学校教育においては、そのほとんどを各教科の授業が占める。つまり、各授業の教科指導を通して人格の完成を目指すことが授業本来の目的となる。

授業とは、児童・生徒同士の関わり合いの中で学び合い、学習内容を理解し人間関係能力や心を成長させていくものである。

『学び合い』の授業の展開

■『学び合い』学習の意義を子どもに納得させるために、下記の内容をしっかりと伝える

※全員がわかるように協力して学習を進めること

- * 『学び合い』に入れない子どもへ、『学び合い』へ入れるように学級全体に納得させる。学び合いに入れないのは、その子のせいではなく、学級の責任ととらえる。
- * **子ども同士の関わり**を保証し、仲間がともに育ち、伸びるような教育環境を提供する。
- * **教師は**、子どもと1対1の関係で繋がるのではなく、子ども集団と繋がる。子ども同士の繋がりを最も重要視する。